

日本フィル「被災地に音楽を」 訪問コンサート レポート 第39号

被災地支援の訪問演奏は、2011年4月から2017年3月末までで通算215回となりました。



龍泉寺のお堂は、金管のキラキラとベストマッチ

二本松からはじまった「被災地に音楽を」の活動
「被災地に音楽を」の活動は6年を越えて200回を超えました。
私たちは音楽団体として、音楽家として、自分たちは何ができるの
だろうと問い続けました。

ほとんどがこつこつと、傷ついた人にかける音楽はあまりに難しく、
あまりに無力です。しかし音楽は不思議な力を持っています。
音楽の力を通じて、まさかこつこつと共通の思いを届けたいと
強く思いました。

被災地で初の演奏会は、2011年4月6日浪江町からの避難者を受け入れていた
二本松市東地区の避難所で実施しました。
きっかけは香港公演で支援物資として預かった乾電池を届けるためでした。
とてこの音のことは思えない馬場町長のお話に、私たちは音楽を失いました。
私演奏させていたけれど、どの希望を受け入れていたのか、
同行していたヴァイオリン、ヴィオラ、トロンボーン3人が、
息遣い、「東和文センター」の玄関の前で演奏を始め、およそ50名の方が
しばし音楽を聴いてくださいました。

私たちが、被災地の方々までどれだけ寄り添えたかは分かりません。
でも、状況が変わっていく中、これからも音楽が必要とされるのであれば、
この活動を続けることはありません。

——6年間の活動記録 より

♪日本フィルハーモニー交響楽団
1999年創立
「音楽を通して文化を共有する」日本フィルは、東北復興支援を目的とする「オーケストラ・コンサート」、
被災地の活性化を図る「エデュケーション・プロジェクト」、音楽の力で希望を伝えるユニティに貢献する
「フューチャル・アクトビリティ」という3つの柱で活動を行っている。2011年4月より、避難からの
難民や被災地の支援を中心に、ボランティア活動「被災地に音楽を」を展開。訪問まで200回以上公演。
オフィシャル・ウェブサイト <http://www.jasacmf.or.jp>

主 催：日本フィルハーモニー交響楽団 共 催：子どもに音楽を伝える会
後 援：福島県文化振興会 二本松市・二本松市教育委員会
協賛

配布したパンフレット

訪問地

2017年3月24日	福島県二本松市	光雲閣
2017年3月25日		二本松市民会館 クリニック 同 コンサート 光雲閣
2017年3月26日		龍泉寺 安達文化ホール

訪問メンバー

トランペット	橋本洋、中里州宏	フルート	鈴木章浩(賛助)
ホルン	丸山勉	クラリネット	楠木慶
トロンボーン	伊波睦	ピアノ	多田直子(賛助)
テューバ	黛拓朗(賛助)		

3月24日 6年目の被災地支援一始まりの土地

二本松市は、山に囲まれ豊かな自然、温泉、そして古くから城を中心に栄えた歴史ある町。震災による建物、道路、ライフラインへの被害は大きかったと言います。一方で、原発事故により、避難を余儀なくされた沿岸部の方々が押し寄せたところでもありました。

2011年4月6日、香港公演で現地の方々から預かった乾電池を片手に、浪江町からの避難者を受け入れていた同市東和地区の避難所へ向かいました。まだ混乱のさなかでした。演奏させて頂けるのなら…と避難所の玄関先で楽器を取り出しました。これが日本フィルの「被災地に音楽を」の活動のスタートでした。我々にとっても思い入れのある土地です。



玄関先での演奏会。2011/4/6 二本松にて。



滝をバックに。お客さんからは温泉の香りが漂っていました。

だけ
 岳温泉は、早くから国民保養温泉として名を知られる名湯の温泉街。今回ご縁があり、地元にもファンの多い光雲閣で、演奏させて頂くことになりました。もちろん宿泊も。二本松を一望できる眺望の宿です。光雲閣は、震災当時大きな揺れに屋根や壁面は崩落、甚大な被害があったとのこと。しかし、温泉は止まることなく湧き出ていました。館内の一部とお風呂は避難者に開放していたそうです。何もない避難所での生活の中で、ここの温泉に入れたことがどれだけ救いになったことか、想像に難くありません。今は立派にリニューアルし、以前と変わらず癒しの温泉旅館として愛されています。ここまでの復活にはスタッフの皆さんの並々ならぬ努力があったに違いありません。6年の年月の労いにもなればと、演奏にも熱が入ります。

宿泊客の皆さんが、お風呂を満喫した後、夕食までの一時に音楽を聴いて頂きました。初日は、金管五重奏の軽快なサウンドを。二日目は、フルート、クラリネット、ピアノのトリオでしっかりと。女将さんのところには、「楽しかったよ」「さすがプロだね」「フルートやクラリネットのソロは初めて聴いた」という声が集まっていました。宿泊客だけでなく、麓の市内からも情報を得て来てくださる方もたくさんいらっしゃいました。中には二日連続の方も！生演奏を心待ちにしてくださっていました。



2日目の夜。くるみ割り人形など華麗な曲目を演奏しました。



2日目の朝、ホテルのロビーで新聞を広げると…
 しっかり記事に頂きました。3月25日福島民報

3月25日 地元中学生へのクリニックとコンサート

2日目の午前中は、二本松市内の4つの中学校の吹奏楽部の生徒たちが市民会館に集まり、合同のクリニックを開催。100名近い生徒たちと音楽を通して触れ合いました。朝の顔合わせでは「〇〇中学校です！宜しくお願いします！！」と、大きな声がホールに響き渡りました。東北の子供は内弁慶と聞きますが、礼儀正しく元気いっぱいの様子。学校によっては先輩だけが唯一の指導者、というところもあります。まずは楽器の手入れから手ほどきをし、短い時間ですがじっくり向き合います。

クリニックの後は、ホールに集合し、トリオと金管五重奏の演奏会。それぞれの美しい響きを、学んだことを頭に入れながら聴きました。



まだ冷たい風が入り込むホールロビー。ホルンの豊潤な音が響き渡ります。



6年ぶりに二本松を訪れた伊波先生



市民会館など公共施設には必ず線量計が設置されています。

3月26日

最終日の午前中は、今回の一連のコンサートをコーディネートして下さった武田住職がいらっしゃる龍泉寺にて。武田住職との出会いは、昨年伺った南相馬の同慶寺での演奏会でのこと。同慶寺のご住職とはFacebookでつながっているという、若いお坊さんならではのアクティブさが垣間見えます。クラシックが大好きだったという先代の住職の供養にもなればと熱望されました。

見晴らしの素晴らしい高台に建つ立派なお寺ですが、まだ安達太良山には雪も残る3月。本堂の中にはありっただけの暖房器具を投入していただきました。ほっと一安心。キラキラの天蓋と金管楽器のキラキラがとても良く合っています。この日は檀家の皆さんと憩いの時間となりました。



本堂いっぱい集まってくださったお客様を前にリリのサウンド。

午後は浪江の方々がいらっしゃるといふ安達地区の文化ホールへ伺いました。あいにくの雨模様の中、二本松の教育長、浪江の副町長がお見えになり「まだまだこれから頑張っていこう、助け合っていこう」と心強いメッセージがありました。

避難しなければならなかった側、避難を受け入れた側、それぞれに大きなストレスが今もまだ続いているのだなと感じました。地元に戻ることを諦めた方も大勢いらっしゃいます。人がいなければ商売も成り立ちません。胸に刺さる言葉をいくつも耳にしました。6年目を迎え、我々の活動も目的が少しずつ変化してきています。変わらないのは、どんな立場の方にも寄り添うこと。これからも励ましの力を信じ、伝えて参ります。



クラリネット楠木はソロを披露。

「被災地に音楽を」活動に同行して

企画制作部 兵 優子

2011年の東日本大震災直後から開始され、演奏回数が200回を超えた日本フィルの「被災地に音楽を」。2017年3月、浪江町の方々が避難してこられている福島県二本松市での活動に初めて同行しました。

3日間にわたるコンサートやクリニックの合間に訪れたのは、津波を襲った地域や原発4キロ圏内の帰宅困難区域。一面平野のようになっている、いま車で通っている道路にまで津波が襲い、長い年月をかけてその水をすべて吸い出し、至るところにあった瓦礫をボランティアの方々が手で回収したと聞き、想像を絶する時間と労力に言葉を失いました。

その平野の近くにある詰所のようなところあった「WBC」という看板。意味を聞くとWhole Body Counterといい、作業に関わった人々が毎日作業後に体内の放射性物質を計測するところだったとのことで、新聞やニュースで見て聞いていただけではわからない生々しさを感じました。

避難地域は、あの日乗り捨てられ6年間同じ場所にあるオートバイ、ペシヤンコに潰れた家、人が住めず伸び放題となった草木に囲まれた家、商品が並んだままの誰もいなくなったコンビニエンスストアなど、そこは時間が止まったままで、復興までの長い道のり、必要な時間を考えさせられました。

さらに、看板を境に向こうは避難区域、こちらは住める区域、と分かるところでは、数メートルしか離れていないにも関わらず自分の家に住める人と住めない人がいる状況に、案内して下さった方からの「空気に壁はありますか？」との問いが、深く心に残りました。

いつ安全になるのかわからない、完全に安全になる日が来るかもわからない、自分の家にも帰れない。

除染が進み、住めるようになった地域も増えてきているとはいえ、たまる一方のビニールシートに包まれた汚染土をどう保管するのか、処理するのか。

そんな不安の中、音楽を聴いていただける余裕がどれくらいあるのか、優先順位はどうなのかなど考えてしまいましたが、今回お客様の反応を近くで見ることができ、大きな拍手を送ってくださり、知っている曲の時はリズムに合わせて楽しんでくださる姿を見て、一人でもこのように喜んでくださる方がいるのなら、癒されたと感じてくださる方がいるのなら、「被災地の音楽を」の活動は続ける意義があり、今後もさらにいろいろな地域・場所・形で音楽を届けていきたいと、改めて強く思いました。

2016年度の実施一覧

4月2日	福島県南相馬市	小高区同慶寺	10月31日	宮城県南三陸町	南三陸病院
4月3日		原町第一中学校	10月31日		特別養護老人ホーム慈恵園
5月6日	福島県南相馬市	原町第一中学校	11月1日	石巻市	雄勝オーリングハウス
5月7日		原町第一中学校	11月1日		川の上・百俵館
6月16日	岩手県久慈市	アンバーホール	11月2日		こーぷのお家いしのまき
6月17日		アンバーホール	12月11日	岩手県山田町	山田町中央コミュニティーセンター
6月18日		久慈高校	12月11日		いっぽいっぽ岩手
6月18日		もぐらんぴあ	12月11日	宮古市	宮古市民文化会館
8月26日	宮城県山元町	花釜区交流センター	12月12日		田老地区サポートセンター
8月27日		山下中学校	12月13日		県立宮古恵風支援学校
8月27日		山元町こどもセンター	12月13日		宮古市総合福祉センター
8月28日	名取市	名取市増田児童センター			

日本フィル「被災地に音楽を」は、三菱UFJニコス株式会社の支援を得て行っています。